

病気がなおるといふこと、
なおらないといふこと。



おおوراクリニック

(リウマチ科)

大浦 孝

今年も冬将軍がやって来た。雪国では雪との戦いの季節である。夜道でも明るい銀世界。今では伝説の雪女と会うこともなくなったと友人が言う。

ところで雪国では雪にも様々な表現がある。ささめゆき（細雪）が初雪で粉雪、ぼたんゆき（牡丹雪）、の小雪も大雪となり、風雪でふぶき（吹雪）がつづき豪雪となり、なだれ（雪崩）うつ。北海道の旭岳では初冠雪となり、来春まで根雪となる。エスキモーでも同様に氷や雪のことを多彩な表現で日常会話しているという事を聞いたことがある。

病気にはなおる、なおらないの表現があるがこれも千差万別である。安易に使用できない微妙な意味合いを含んでいる。毎日なおるなおらないと呻吟してこれをなりわい（生業）としている者にとって正に死活問題である。

「この病気はなおらない」と言われたとふんまんやるせなく相談を受けることがしばしばある。いわゆるセカンドオピニオンを求められるのである。この10年間、一般的に「この病気はなおらない」ものとして教科書には記載されて

いる。実は本にのっていることは昔のことで今、ここであなたの「この病気はなおらない」かどうか即答はできかねますが充分検討の余地がありますと答えるべきある。というのは医師が「なおらない」と言うのと患者が「なおらない」と受け取るのとではその解釈にはかなりの乖離がある。患者曰く。「この病気ではなく私の病気をなおしてほしいのです」医師曰く。「あなただけではなくこの病気はなおらないのです」との押し問答がつづく。ここで医師は正直に言うべきである。「私にはなおせないのです」「当院ではなおせないのです」「東京でもなおせないのです」「アメリカでは2、3なおった例があります」「現代の医学ではなおせないのです」「来年にはいい薬が出てなおります」「将来はなおせる様になります」「自然になおった例もあります」

なおると断言することはむずかしい。なおらないと断言することは更に困難であり自信がない。16世紀の近代外科学で有名なアンブロワーズ・パレの有名な言葉がある。「To cure sometimes」「To relieve often」「To give comfort always」「時に医師は治すことができる。しかし、しばしば症状を和めることができる。でも、いつもできるのは心を支えること」又、「Medicine is an art based on science」聖路加国際病院の日野原重明先生はこのウィリアム・オスラーの言葉を引用して次の様に述べておられる。医学は、単なる医学ではなく、サイエンスに支えられたアートなのです。知識とテクノロジーをその患者にどのようにタッチするのか、どういうタイミングで、どういうふうな説明で、どういう慎重さでやるかということです。音楽家が同じ曲を演奏してもそれぞれが固有の演奏になってると同じように、知識とテクノロジーを持っていても、その患者にどのようにケアを提供するかという適用の技がアートなのです。

ともあれ現実的には十分に状況証拠を固め、慎重にその可能性を触れるにとどまる。医療施設、設備、技術レベル、その他の総合力を一定

とした場合、次の様に患者の側でも判断される。但し不可抗力、事故はないものとする。

- ① なおった：早期に発見され、傷は浅く、軽症で進行せず、かつ年齢は若く回復力も旺盛であった。
- ② なおらない：進行性で転移し手遅れで合併症もあり重症となり末期で、かつ高齢者で回復力は乏しい。

以上は癌の場合を想定して単純化した但实际上はこの様に単純ではなく正に千差万別である。

又、診療録（カルテ）、論文、学会発表では学術専門用語として、①完全寛解②不完全寛解③欠損治癒等の用語が使われる。いずれもなおったことになっているが若干の説明を要する。①は5年間治療なしで、全く発病、再発の兆候がない場合を指す。但し、10年後、20年後の再発も稀ながらありうる。②は治療なしで検査所見（テスト）では異常は続いているが日常生

活に支障なく時々通院して検査、指導を受けている状況を指す。再発するか完全寛解するか未知の部分が残る。③は肉体組織の一部は癒痕として固まって欠損しても大部分は正常機能が作動している状態を指す。

以上の如く、なおる、なおらないと言っても時と場所によって、その意味するところは千差万別であり、言葉も又生き物である。従ってその昔使用されていた「難病」「不治の病」という言葉は逆説的には死語となりつつある。この様な一般的概念では包括できない程医療現場は個別化している。

（ここでは死の宣告の問題には触れない。）

参考文献

日野原重明：「Good Death」
 日本内科学会雑誌：Vol.95, No3, 41-49
 March 10, 2006



原稿募集！

「発言席」のコーナー

会員の皆さまの御意見、主張を掲載いたします。
 奮ってご投稿下さい。